

社会福祉法人わかば会

令和6年度 事業報告

はじめに

今年度は障害福祉サービス等報酬改定の年であり、各種サービスの基本報酬費の変更に加え、処遇改善加算の一本化など大きな変更がありました。

「報酬改定の基本的な方向性」として示された

- ・障がい者が希望する地域生活を実現する地域づくり
- ・社会の変化等に伴う障がい児・障がい者のニーズへのきめ細やかな対応
- ・持続可能で質の高い障がい福祉サービス等の実現のための報酬等の見直し

の3つを事業計画に記載し各事業所でも達成に向けてさまざまな企画や活動をおこないました。

継続する物価高騰への対応のため、利用者実費額の変更や、補助金申請なども含め新たな活動展開により、少しでも経営状況の改善を図るよう工夫をし、併せて建物や設備の修繕を実施するなど、利用者や職員にとって少しでもよりよい環境を作れるように努力しました。

事業所ごとの状況については、毎月の事業所連絡会で報告し、法人全体としての情報共有をしています。また、法人全体の大きな変化の一つとして、「人事考課規程」と「職員提案規程」を今年度から導入しています。「利用者に対してのサービスの質の向上」につなげるべく、職員一人ひとりの自己研鑽と、それによる職場の活性化を目的として取り組んでいます。まだ始まって間もないこともあり、どのように進めていくか定まり切っていない面もあるため、振り返りと修正をしながら実施してまいります。

* 定時評議員会

令和6年6月21日(金曜日)午後1時30分から午後3時30分まで

報告事項

令和5年度事業報告について

決議事項

令和5年度計算書類及び財産目録の承認について

定款変更の承認について

役員の報酬額決定及び役員等報酬規程の承認について

* 令和6年度第1回役員会

令和6年6月5日(水曜日) 15時00分から17時00分まで

報告事項

理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

決議事項

令和5年度事業報告及び令和5年度計算関係書類並びに財産目録の承認について

定時評議員会の招集について

放課後等ディサービス(Kids わかば)の事業廃止に伴う定款変更について

給与種類、第2条に福祉・介護職員等処遇改善加算等追記により給与規程変更について

地域活動支援センター事業内容について

邑智園修繕方針について

＊令和6年度第2回役員会

令和6年 11 月 27 日(水曜日) 15 時 00 分から 17 時 00 分まで(予定)

報告事項

理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

島根県実地指導監査

運営規程の変更(サポートハウスわかば・サポートセンターおおち)

(ジョイワークみさと・川本ワークス)

決議事項(議案書は別添のとおりです)

令和6年度中間事業報告及び中間決算

島根県最低賃金改正に伴い給与規程変更について並びに嘱託職員就業規則別表 1 給与表
変更について(案)

川本ワークス就労事業拡大について

地域活動支援センターあおぞら・ひまわり事業について

令和6年度第一次補正予算(案)

邑智園屋根修繕について

協議事項

役員任期について

＊令和6年度第 3 回役員会(決議の省略)

第1号議案 第2次補正予算(案)について

開催日時及び開催場所

決議の省略の方法により行う

議題

邑智園屋根修繕に伴う施設整備等積立資産の取崩について、併せてわかば会事業所パソコン更新
契約及び邑智園 C 棟廊下エアコン更新に伴う第2次補正予算(案)について審議をお願いします。

議案の概要

11月27日開催の役員会において邑智園屋根修繕について承認を頂きました。施設整備等
積立資産の取崩により処理をいたします。

わかば会事業所(ジョイワークみさとを除く)のパソコンリース更新契約について令和7年2月に更新と
なります。また、Windows10 のサポートが令和 7 年 10 月で終了になります事も更新理由に挙げられま
す。

総額 5,366,900 円(税込み)パソコン 28 台ミック様と契約をさせていただきます。

リース契約については、2社より見積もりを頂きました。

ごうぎんリース 92,400 円

シャープファイナンス 93,280 円

安価なごうぎんリース様と契約をいたします。

邑智園 C 棟廊下エアコンが故障しました。修理より美郷ゼロカーボン補助申請にて 1/2 の補助対象と
なります。

総額 1,320,000 円(税込み)のところ 税抜き補助率 1/2 600,000 円を補助申請とし自己資金 720,000
円(税込み)の支払いを見込んでおります。

＊令和6年度第4回役員会

令和7年 3 月 15 日(火曜日) 15 時 00 分から 17 時 00 分まで(予定)

議 題

報告事項

理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

決議事項(議案書は別添のとおりです)

令和6年度第3次補正予算(案)について

令和7年度事業計画(案)及び令和7年度当初予算(案)について

日中一時支援事業運営規程、ソーシャルメディア管理規程、就業規則
共同生活援助運営規程について

統括管理責任者について

令和7年度契約事項(委託事業、土地、建物等)の継続契約について

＊自己資金による施設整備等

ジョイワークみさと

ガス発電機 R6.4.20 327,250 円

サポートハウスわかば(さくら)

台所小型電気温水器 R6.7.12 111,000 円

サポートハウスわかば(はづき)

スプリンクラーポンプユニット取替工事 R6.7.31 1,760,000 円

邑智園

三菱ルームエアコン C 棟 R6.8.3 129,800 円

三菱ルームエアコン A 棟 R6.8.3 129,800 円

サポートハウスわかば

IH ヒーター据え置き型 R6.9.3 134,893 円

＊補助金による取得

川本ワークス

セレナ 51-66 R6.4.22 3,158,700 円 内補助金 2,240,000 円

邑智園

C 棟廊下エアコン R6.12.26 1,320,000 円内補助金 600,000 円

B 棟廊下、印刷室エアコン R7.1.30 1,430,000 円内補助金 650,000 円

ジョイワークみさと

島根県障がい者就労支援事業所工賃向上支援事業補助金

R7.3.7 461,000 円

川本ワークス、サポートセンターおおち、地域活動支援センターひまわり、

ヘルパーステーションわかば、サポートハウスわかば

川本町エネルギー・資材等物価高騰対策支援事業補助金 50,000 円(各事業所 10,000 円)

＊固定資産台帳移動による機器設備取得

取得

邑智園

学習室エアコン一式 R6.4.1 55,569 円 kids わかば

プレイルームエアコン R6.4.1 1 円 kids わかば

プレイルームエアコン R6.4.1 1 円 kids わかば

ガス給湯器一式 R6.4.1 62,009 円 kids わかば

軍手編み機一式 R6.9.9 1 円 川本ワークス

日産セレナ 26-07 R6.4.1 1 円 川本ワークス

*廃棄

邑智園

軍手編み機一式 R6.9.9 取得 2,159,325 円 廃棄 1 円

川本ワークス

日産セレナ 26-07 R6.4.1 取得 487,100 円 移管 1 円

邑智園

日産セレナ 26-07 R7.3.31 取得1円 廃棄1円

ヘルパーステーションわかば

ステップワゴン R1.6.25 取得 632,880 円 廃棄 1 円

Kids わかば

学習室エアコン一式 R6.4.1 取得 136,080 円 移管 55,569 円

プレイルームエアコン R6.4.1 取得 336,000 円 移管 1 円

プレイルームエアコン R6.4.1 取得 226,000 円 移管 1 円

ガス給湯器一式 R6.4.1 取得 177,163 円 移管 62,009 円

法人本部

数年来の課題となっていた邑智園の建て替えの件については、大規模改修で対応していく方向性となり、現場職員の意見をもとに検討いたしました、今後は関係者等と細かな打ち合わせをしながら進めていくこととなります。

10 月には共同生活援助事業と相談支援事業の実地指導監査が実施されました。県からの指摘事項をもとに、書類や体制など必要なところを修正いたしました。

職員の安定した確保と資質の向上に向けた人材育成

「はじめに」でも挙げたように、今年度から新たに「人事考課制度」と「職員提案制度」の運用をおこなっています。人事考課については、7 月末を期日に目標設定をし令和 7 年 2 月末を振返りと再設定といたしました。職員一人ひとりが目標設定とそれに取り組む過程の中で、業務改善、資格取得などの動きをし、精神保健福祉士1名、介護福祉士1名の合格者を出しました。反面今年度退職者も2名でしております。

利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みの強化

今年度も月 1 回の「権利擁護委員会」の開催とそこでのさまざまな課題に対する取り組みの検討を実施し、今年度から義務化となっている「身体拘束の適正化」に関して、各事業所で状況が異なる中で、いかに取組んでいくか来年度に向けても検討していきます。

利用者の高齢化、重度化への対応

法人内の各事業所で少しずつ顕在化しているものであり、特に施設入所支援である邑智園で顕著となっています。上記にある「施設の大規模改修」の内容として、利用者にも職員にも負担の少ない介助や介護を実施すべく、設備面の改善を図れるよう準備しています。

また、現在利用されている方の「重度化」に加え、例えば強度行動障害を伴うなどの「重度の利用者」の新規受け入れをどうするかについて、各事業所からも少しずつ意見が挙がっています。現時点での具体的な対策や取り組みはできていませんが、職員対象に研修受講などでのスキルアップを図り、事業所連絡会やサービス管理責任者の連絡会などで情報交換と共有を今後も実施していきます。

邑智園

令和 6 年度報酬改定と同時に基本的支援の方向性が示されたこともあり、それに合わせた業務の体制づくりを進めました。特に各種加算重視の介護給付費対応になっていることから、算定ミスのないよう取り組みました。

重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患をお持ちの方が多く利用されているため、新型コロナウイルスをはじめとした感染症拡大の防止を意識しながら支援をおこないました。ただ、7月末に感染が確認され、8月中旬までのクラスターが発生いたしました。他事業所の応援もいただき終息致しましたが、職員の感染もあったため、施設内での勤務体制整備が課題の一つとして挙がりました。そのため、全スタッフによる早番対応を始め、どの部門の職員でも広く業務ができるよう工夫していきます。災害についても石川県の教訓をいかし、さらに訓練や防災用品を準備し研修にも参加いたしました。

邑智園の大規模改修計画については、関係者等としっかり協議し取り組みます。

利用者の高齢化、重度化はさらに進んでおり、介助・介護を中心とした支援になっています。利用者のニーズの把握や利用者にあった役割の設定など、その人らしい豊かな暮らしができるように個別支援計画を策定し、質の高いサービスの提供につなげられるよう各会議や研修会に積極的に参加します。

各会議・研修を実施しています。

事業所連絡会(月 1 回) 権利擁護委員会(月 1 回) 給食会議(月 1 回)

事務局会議(月 1 回)

企画会議 職員会議 支援会議 委員会活動

外部研修(中・四国)

施設入所支援

定員 39 名に対し令和6年度末時点で 34 名(女性 11 名・男性 23 名長期入院を含む)となっておりますが、4月末に退所の方1名、4月2日に逝去された方があり 32 名となりました。令和6年度も地域移行により1名が GH での生活を現在も継続されており、規定により令和7年度は定員 38 名となります。

平均年齢も 70 歳となり、延べ年間入院者数は約 823 名となっています。医療的な支援が多くなり施設復帰が難しい利用者も出てきています。

邑智園の入所申し込みの待機者は男性1名おられますが、現在も入院中であり施設入所は難しい状況です

新体制となり、生活基盤がまず安定できるよう、エアコン・トイレなど一部更新を行いました。また大規模改修に向けた介護用品の見学やデモ機導入なども行いました。

施設入所支援での通院加算、感染症対策加算などが新しく収入対象となりました。

園行事も例年通りの行事と冬季のイベントを行い元気に過ごせるよう意識付けを行いました。

感染症対策についても夏のクラスターがありましたがその後職員に感染者がいましたが利用者への感染は無く過ごせました。

研修参加も身障協の大会や事例検討などのグループワークを行い、今年度からの人事考課研修も手探りながらも実施することができました。

生活介護支援

令和6年度末、新規利用2名の方が利用を開始され 40 名の登録者で 36 名となっております。

入院された方ややめられた方などおられますがお一人おひとりに合った支援を行って参りました。8 月より仁寿会様との契約で理学療法士を月2回派遣していただき、リハビリの充実を図ることができました。令和6年度の体制加算としてリハビリ加算、入浴加算、看護師配置加算が収入対象となりました。

作業支援も軍手作業・簡易作業を中心に中村ブレイス・ヒューマンハンド・群言堂様の内職を行いました。生活面では個別の支援を行いながらユニットの中でのイベントやリハビリ、創作活動、誕生日会などをおこない「はたらく」と「くらす」をお一人おひとりに個別支援計画に基づいて支援をおこないました。

就労継続 B 型

令和 6 年度の売上は 37,573,241 円でした。印刷部門では人手不足でもありましたが 21,649,233 円の売上があり昨年度よりも 5,700,000 円増となりました。しかし高齢化に伴い退所者や入院、体調不良での欠席が多く、稼働率は 92%となりました。各部門で人手不足の補いや利用者の方々の出来る事を増やし、工賃向上につとめ令和 6 年度の平均工賃は 52,637 円となりました。今後も工賃向上はもちろん最大の課題である利用者確保についても取り組んでいきます。

印刷部門

令和 7 年 3 月末時点で 21,649,233 円の売り上げとなり、前年と比較して約 5,700,000 円の売上増となりました。目標売上高に対する達成率は 133%で前年より 29%増となり純利益は 2,799,606 円でした。年間を通してセルフセンター案件を 10 件程度受注し完了しました。およそ 7,350,000 円の売り上げとなり全体の 30%超です。優先調達法での案件が大きな割合を占め一般企業からの受注については減少傾向となっています。年賀印刷については年々減少となっている中、印刷代の値上げを行い対応しました。機材についてはオンデマンド機を主に活用し少部数のナンバリングが有る物については内製で行いました。

軍手部門

令和6年度の軍手部門の収支は△1,065,777 円となりました。主な要因は、年度当初から純綿糸の従来の入荷先である KB ツヅキでの生産調整により思うように入荷できず、代替である純綿糸が高額により原価率が上昇したことに起因します。残糸での生産は従来行ってきた KB ツヅキでの 5 本編みのところを残糸では 7 本編みとなり、機械を入れ替えた事によって稼働率はよくなりましたが、資材を多く使用することとなったこともマイナスになった要因と考えます。

農園部門

稲作については例年通りの面積できぬむすめを栽培しました。前年度にレンゲを植え堆肥と合わせて無農薬に近いお米を栽培しました。今年度も 1 反分猪の被害があり、前年度と変わらない収穫量になりました。新商品の 2 合米はイオン大田、インフォメーション川本、ごいせ仁摩で販売しました。畑作については、ピーマンと広島菜の栽培を行いました。ピーマンについては、猛暑だった為に例年より赤い個体が多く、販売が大幅に減少しました。広島菜については、猛暑と害虫・害獣の影響で収穫量が大幅に減りました。菌床椎茸については 400 床栽培を行いました。販売先をみさと市に絞った結果、収入アップにつながりました。地域の草刈りについては 2 件の依頼があり、来年度も引き続き行います。邑智園内の環境整備作業を後半から行いました。来年度は 4 月から定期的に行います。収支は 2,322,465 円で 44,163 円のプラスでした。

簡易作業部門

令和 6 年年度の収支は 852,584 円となりました。

収益内容は、カットウエス・お菓カレンダー・防水シーツの販売、群言堂の紙貼り作業・布組・タグカット作業、中村ブレイス作業、売店売り上げ、自動販売機売り上げによるものです。カットウエス、お菓カレンダーの売り上げは微増加傾向で、群言堂の紙貼り作業は横ばい傾向です。中村ブレイス作業は変わりなく推移しています。売店売り上げ、自動販売機売上は微増加傾向にあります。

施設外部部門

令和6年度の収支は164,444円となりました。内容は、サテライトオフィス、みさと館、園内清掃、ダスキンマット・モップ交換等です。

サポートハウスわかば

障がいのある方々が地域で安心して暮らせるよう、スタッフをはじめ関係機関と連携しながら、本人の希望に沿った生活が送れるよう支援を行いました。

令和6年度は、新たに5名が入居し、2名が退去されました。また体験利用者は6名で、体験を通し入居に至っています。令和7年3月31日現在の利用者は31名(満床34名)です。短期入所については3名の方がそれぞれ目的をもって利用されています。

利用者の障がい種別が多様化する中、共同生活を送る上でのルール作りを一緒に考え支援を行いました。

生活支援

食事について、毎食の喫食希望を摂り提供しています。スーパーやコンビニにてご自身で調達される方もおられるため、栄養面の声がけも必要時行いました。

生活において、支援計画に沿って入浴、歯磨き、居室の清掃等の見守りを実施しました。買い物は多くの利用者は町内で済まされますが、衣類等の購入は通院の際に合わせて個別に対応し楽しみの一つにもなっています。

健康管理は毎日2回体調確認の声掛けも含め検温を実施し、適宜血圧・体重測定を行いました。かかりつけ病院との連携も行い診察同席・服薬確認を行っています。健康診断の案内がある利用者には内容を説明し健康管理のため積極的に受けるよう促しました。また結果によってはかかりつけ病院へ繋いでいます。

金銭管理について、1週間・1ヶ月間分が遣り繰りできるよう声掛けしています。お金のサンプルで支払い練習し、実際食堂でメニュー注文から支払いまでできるようになったケースもあります。

防災訓練・感染対策

両町のグループホームにおいて避難訓練を年2回実施しています。業務継続計画を基に、風水害などの災害に備え非常食や生活水の確認や確保を行い、避難ルートの確認や緊急連絡網の再確認など実施しました。また避難確保計画を各町へ提出しています。

新型コロナウイルス感染症については、5月に美郷グループホームにて5名の方に、3月には川本グループホームでスタッフを含め11名の方に感染が確認されました。いずれも重症例はなく時間の経過とともに日常生活に戻りました。マニュアルの見直しを行いながら基本の予防対策の重要性を改めて認識しました。

余暇活動

花見やゴールデンウィーク・お盆など季節行事に併せバーベキューや鉄板料理を提供しました。恒例となった行事ですが毎回好評をいただいています。

定期的に地域の図書館を利用し図書やDVDの貸し出しに同行し趣味の拡大に繋がっています。また地域でのイベントの案内をし同行するなど一緒に楽しみ、地域の方から声をかけていただく利用者もおられます。

美郷町でアート展が開催され、アート作品を出展された方や、会場に足を運ばれた方、イベントスタッフとして携わった方などそれぞれが新たな体験を通じて活動の広がりが感じられました。

苦情受付

上半期で 2 件の苦情を受け付けました。苦情内容は世話人の発言と一部支援員による無断入室の疑いの内容でした。早急に状況確認、スタッフ会議にて世話人、夜勤者へ周知を行いました。その後苦情はありませんでした。

ヒヤリハット報告

ヒヤリハット 2 件 事故報告 7 件

報告に対し、事故を減らし安全に過ごしていただけるよう、改善対策を行っています。また些細な事にも気づきが大事であることをスタッフ間で確認しています。

光熱水費の課題

従来より光熱水費の徴収額に対して実際の費用が上回り事業所負担が増加傾向にあった為、その旨利用者や保護者に説明を 3 月に行い、6 月より増額請求しています。また日常生活の中でも電力や水道の使用の見直しもかかわりの中で声掛けしています。

研修

福祉職員キャリアパス対応生涯研修参加

大田圏域感染症対策研修会参加

法人内の権利擁護研修及び各事業所へ通達

月一回世話人・夜勤者スタッフ会議にて利用者支援の情報共有

週一回メンバー会議にて利用者支援計画見直しのための会議を実施

令和6年度は新規利用の受け入れが 5 名と多く、病院や入所施設からの退院退所後の生活の場として、また家族の元を離れて自立した生活を目指す目的での入居となっています。利用者一人ひとりに応じた支援を提供する中で、共同生活においての時間の使い方やメンバー間のかかわり方、日中活動先との連携や、体調の安定を図るために病院や関係機関との連携を図るなどの支援を継続していきます。今後も安心・安全で自立支援に資するグループホーム運営を継続していきます

川本ワークス

令和6年度は管理者の交代があり、新たな体制での年度初めとなりました。利用者の状況は、利用登録者が 25 名、平均利用が 1 日当たり 19.7 名で推移しています。3 月に因原グループホームにて新型コロナウイルス感染症のクラスターがあった関係で、若干利用が少なくなることもありましたが、全体的には定員の 20 名を超えることも日によってあり、給付費収入も昨年と比べ、10%程度増えました。就労について、令和 6 年度の売り上げとしては 11,239,008 円で、平均工賃月額 25,076 円でした。事業所独自の商品よりも自動車部品作業など下請での作業が中心です。作業の状況としては下記のとおりです。

自動車部品作業

自動車部品作業の売り上げは 1,027,627 円で、収支としては△1,184,154 円でした。半導体を初めとした原材料の価格高騰の影響を受け、部品が入りにくい状況下にありますが、作業量の増減はあるなかでも、毎日の納品を継続しました。

食品作業

食品作業の売り上げは 2,477,594 円で、収支としては△1,360,763 円でした。県内外からの注文があり、近隣の道の駅からの注文を中心に対応しました。原材料の高騰に悩まされ、材料がなかなか手

に入らない時期もあり、対応に苦慮しました。

喫茶作業

喫茶作業の売り上げは 4,169,110 円で、収支としては 1,669,296 円でした。昼夕の弁当提供を中心に、カフェ・ドゥ・ソレイユの営業も継続しています。カフェ・ドゥ・ソレイユの隣の店舗で営業されていた岩見屋様を取得し、弁当を中心に販売しました。島根県就労事業振興センターの専門家派遣事業を利用し、弁当製造における衛生管理について学びを深め、その時に得た知識を基に安全・安心な弁当製造に力を入れています。

簡易作業

簡易作業の売り上げは 3,333,677 円で、△620,494 でした。利用者の皆さんが取り組みやすい作業でもあるため、継続して作業をいただけるよう委託業者様との関係づくりをしております。新たに中村ブレイス様からミシン作業を委託され、利用者様にも練習を重ねてもらい売り上げに繋がりました。以前から取引のあった株式会社ヒューマンハンド様からの作業も種類が増え、意欲的に取り組んでいます。

施設外作業

施設外作業の売り上げは 1,944,242 円でした。川本町役場様のトイレ清掃作業、公共施設の草取り等環境美化作業、自治会配布物の仕分け・配布作業、県央県土整備事務所様の信書便物配達作業に取り組みました。

生活支援

川本町役場の保健師による毎月の健康相談を中心に、継続して通所できるように健康管理をおこなっています。関係機関とも連携し、利用者の変化に目を向け、生活リズムが維持できるように支援しました。年1回の日帰り旅行(アクアス、三瓶自然館サヒメル、買い物ツアーから 1 つ選択)へ出掛けひと時のリフレッシュし、悩み相談に耳を傾けた一日となりました。

サポートセンターおおち

地域担当制を取り入れ、基本相談・計画相談・地域相談を中心に活動を展開しました。各地域における関係機関との連携を大切にし、地域に根ざした支援体制づくりに努めました。限られた人員の中で対応を続ける中、今後の安定的な支援の継続には、相談支援専門員の人材育成と増員、安定した収入の確保が課題となっています。今年度は収入の増加に加え経費削減にも取り組み、組織運営の持続可能性を意識した事業展開を行いました。

基本相談に関しては、美郷町・川本町からの委託を受け、障がいのある方全般を対象に、サービス利用につながっていない方や外出が難しい方、権利擁護の課題を抱える方など、幅広い相談に対応しました。地域活動支援センターと連携し、地域の交流センターや隣保館への訪問、共同での行事開催などに取り組み、地域福祉への貢献を意識した支援を行いました。その結果、サービス利用へとつながるケースも見られ、当法人や支援体制の周知にもつながりました。

計画相談に関しては、報酬単価の改正により前年度の収入より上回りました。また、新規サービス利用者もあり対応件数も増えています。相談支援の質の維持・向上を目指し、サービス等利用計画の的確な作成とモニタリングの徹底を行うとともに、「個別避難計画」や「BCP(業務継続計画)」を含む計画づくりに取り組んでいます。

地域相談に関しては、地域移行支援 3 件、地域定着支援 3 件と、支援件数は近年で最も多く、退院支援や地域生活の継続支援に積極的に関わりました。その結果、収入も前年度を上回る結果となりました。今後も、地域生活へのスムーズな移行と定着を目的とした支援を継続的に行い、関係機関との連携体制の強化が求められます。

スクールソーシャルワーカー事業に関しては、福祉の視点から、学校現場への支援や教職員との

連携を行い、子どもたちや保護者の困りごとに早期から対応できる体制づくりに努めました。対応時間数も増えており、本事業は年々ニーズが高まっている分野です。

ピアサポーター事業に関しては、養成講座の参加促進や啓発活動に加え、精神科長期入院者との交流会を定期的に開催し、退院後には当法人のサービス利用へと円滑に結びつけることができました。今後も、当事者の力を活かした支援(エンパワメント)を継続し、地域移行の促進と地域で暮らし続けるための支援体制づくりに努めます。

地域活動支援センターあおぞら

令和6年度の利用登録は32名、1日の平均利用者数は15名で地域の方を含め、多世代の方に利用していただきました。週1回運動の日(アクティブの日)を設け、参加者が心身ともにリフレッシュできるようサポートしました。また、月1回のパソコン教室は平均6名の参加があり、デジタルスキルの向上を目指し、参加者が快適にパソコンを使えるよう共に学びました。おひさまカフェでは平均7名の参加があり、多世代交流を促進するために創作活動を行い、参加者同士のつながりを深めました。カフェの日や簡単な勉強会も定期的に開催し、リラックスした雰囲気の中で知識を共有する場を提供しました。休日活動では、木工教室や社協主催のユニバーサル交流会に参加し、地域の子どもたちと利用者さんの交流を図る機会が作れました。歳末チャリティーショーでは、ダンスや手話の発表を通じて、参加者の得意な表現力を引き出すことができました。

特にアート展は初めての試みであり、利用者さんが得意なことを発揮できる場として企画しました。美郷町出身の絵本作家さんや専門スタッフの皆様のアドバイスを受けながら、アートを通じて多くの方々となつながら機会を作れたと思います。参加者や来場者からも好評を得ました。今後も引き続き、地域のニーズに応じた活動を行っていき、より多くの方々に利用していただけるよう努めます。

地域活動支援センターひまわり

ひまわり前期の利用登録者数は46名、一日平均利用者数は8名となっています。

静かに過ごしたい方、談話や活動を楽しみたい方と利用される方々のご希望に合った時間帯をご案内しながら、安心して過ごせ、来所しやすい環境づくりをしました。

生活支援では、日頃利用者の方から頂いた相談を基に、川本警察署に協力をいただき、安心安全な地域生活を送るための方法を考え、学ぶ機会を設けて日々の生活に役立てました。在宅で利用される方々へは電話での対応をきめ細やかに行い、日々の悩みや不安の軽減に努めました。また、職員のスキル向上のため研修へも参加をしたほか、日頃から職員間だけでなく関係機関との情報共有を密にし、より良い支援に繋がるよう対応しました。

日中活動では、町主催の健康ウォーキングや保健師による健康教室へ積極的に参加をしたほか、室内の軽スポーツや自然散策を取り入れ、体力づくりや心身のリフレッシュに努めました。

地域交流に関しては、新しい取り組みとして近隣他施設との交流会を行い、社会性を高めるとともに他の施設の活動内容を知ることができました。今後も積極的に近隣地域へ足を運び、繋がりを深めていきたいと考えます。

日中一時支援(にこにこハウス)

利用者数、小学生3名(内2名新規)、成人1名の計4名。ひまわり内では日々の活動を通してコミュニケーションの練習や社会生活に役立つ経験が出来るよう取り組みました。長期休暇中には、今後の進路決定への情報提供として施設見学を行い、食堂を利用することで社会体験を通してルールを学びました。地域の方との交流会として映画祭を主催し、地域の小学生や大人の方との交流を深めることでにこにこハウスを知ってもらう機会となりました。令和6年度は運営規定の変更により、全事業所での受け入れが可能となりました。

ひきこもり居場所支援事業

引きこもり状態にある本人や家族が集うことのできる居場所を地域活動支援センターひまわり施設内に開設するとともに、必要に応じて個別訪問等による出張支援を実施しました。また、パンフレットを作成して自治会や民生委員、関係機関を中心に配布を行い、多くの方々に「居場所」の存在を知っていただくよう努めたほか、SNSやインターネットを使って活動ができるよう通信環境を整えました。

引きこもり状態が長期化している方に対してはすぐに居場所につながる事が難しく、継続的なアプローチと信頼関係の構築が必要であり、今後も継続的な支援に努めます。

ジョイワークみさと

令和6年度の1日平均利用者数は 18.5 人でした。令和7年 3 月末で長期休んでおられた方1名が契約終了となりました。長期利用のない方については、ご本人の体調、意向、福祉サービス利用の状況等を確認し契約の継続、終了を決定いたしました。また、今年度の一般就労者はありませんでした。就労事業について全体売上は前年度並みとなりました。物価高騰の影響もあり厳しい状況ではありますが、平均工賃月額 は 26,629 円となり、前年度を上回ることができました。詳細については下記の通りです。

そら豆・キッチンカー

売上は前年度並みとなっております。店舗へ来店されるお客様が減っているため集客に向けた取り組みが来年度への課題となりました。キッチンカーでは出店の要請をいただくことが増えましたが、休日の出店が多いため対応できず前年度売上の約6割の 550,000 円となりました。

施設外就労(便利屋・広報仕分け・生協配達)

生協配達については、8 月末に配達中の事故がありリース車が廃車となりましたが、代車を購入させていただき配達を継続することができました。10 月に石見自動車教習所での実地講習を行い、日頃の運転技術のクセや注意する点について講習を行いました。便利屋では一般廃棄物の受注は 23 件でした。空き家解体に伴う処分や高齢者様宅の不用品処分が主でした。作業内容を細分化し、内容に応じて利用者の方に作業の提供を行いました。

簡易作業

群言堂様からの委託作業、自社製品の神楽グッズの製作、販売を行いました。神楽イベントが増えたことによりグッズの売上も 730,000 円の前年度 25%増となりました。売上は増加しつつありますが、携わる利用者の方が多く利益が出るまでには至りませんでした。

菓子製造

珈琲時間様からのかりんとう委託作業と自社製品として「令和6年度島根県障がい者就労支援事業工賃向上支援事業補助金(新商品開発・販路拡大事業)」を受け、地元の素材を使用した「はちみつフィナンシェ」、「カップケーキ(ゆず・煎茶)」、フードプリンターを使用した「神楽プリントクッキー」を商品開発し販売することができました。利用者の方に新たな作業提供を行うこともできました。

利用者の方の生活面における支援については、月1回の保健師さんによる健康相談の実施、栄養バランスを考えた食事、楽しみ(季節メニュー、リクエストメニュー)を取り入れた食事の提供を行いました。余暇活動として2班に分かれ日帰り旅行、カヌー体験・バーベキューを行いました。

職員研修にも積極的に参加をさせていただき、職員のスキルの向上、モチベーションアップに繋がりました。

研 修

福祉職員キャリアパス対応生涯研修(チームリーダーコース)

福祉職員キャリアパス対応生涯研修(中堅職員コース)

人事マネジメント研修(チームリーダースキルアップ研修)

令和6年度島根県相談支援従事者承認者研修(サビ管6科目)

サービス管理責任者基礎研修

令和6年度虐待防止・権利擁護研修

講 習

液化ガス緊急対応講習(キッチンカー)

一般廃棄物実務管理者講習(便利屋)

安全運転管理者講習

ヘルパーステーションわかば

令和6年度は新規利用もありましたが、施設へ入所や利用減少等変動の多い年となりました。居宅介護事業として利用が広がらずその為収入も減少しており、非常に厳しい現状となっております。

居宅介護

利用者数は12名。内、6月に1名新規利用がありました。これまでサービスが入っていなかったこともあり、丁寧な関わりを行い本人ご家族とのコミュニケーションづくりを目的として現在週に1回の訪問を行っています。春先から体調を崩される方も多くあり、長期入院が1名、入院から施設へ入所となり終了となった方が1名でした。体調の変化にも気を付けていながら在宅で安心して過ごせるように対応していきたいと考えています。またヘルパーのスキルアップの為研修に参加しました。ヘルパー依頼の声もありますが、移動時間等の課題もあり対応が難しい状況です。

移動支援

利用者数は28名。内、3名の新規利用がありました。高齢者の方の利用が増えてきており、対応については関係機関と連携をとりながら対応しました。入院中に亡くなられた方や施設入所により2名の方が終了となっております。難しいケースも増えてきており、配車や移動距離等課題も多くあります。

通学支援

利用者数9名。内、寄宿舍利用で新規1名の方の利用開始となりました。また3月には石見養護学校1名、出雲養護学校1名の2名が卒業となり、出雲養護学校便は今年度で終了となりました。宿舍の方が増えているため、毎日運行はしていますが利用者は少ない状況となっております。